

第28回（令和5年度第2回）岩手県スポーツ推進審議会議事録

日 時：令和5年11月14日（火）

会 場：岩手県水産会館

出席者

○ スポーツ推進審議会委員

阿部 里美 委員 内城 寛子 委員 小野 甚市 委員 小山田 浩之 委員
菅 義行 委員 菊池 幸子 委員 木下 淳 委員 今野 房子 委員
谷藤 節雄 委員

○ 岩手県文化スポーツ部

小原文化スポーツ部長

▪ スポーツ振興課

鈴木総括課長

佐藤主幹兼生涯スポーツ担当課長

熊谷上席スポーツ振興専門員兼競技スポーツ担当課長

小川特命課長（特定課題）

○ 岩手県教育委員会事務局

▪ 保健体育課

粒來主幹兼保健体育担当課長

○ 盛岡広域振興局経営企画部

三浦主事

○ 県南広域振興局経営企画部

萩原主事

○ 沿岸広域振興局経営企画部

鈴木特命課長（特定課題）

○ 県北広域振興局経営企画部

小川特命課長（特定課題）

1 開会

(鈴木総括課長)

ただ今から、第28回岩手県スポーツ推進審議会を開催いたします。

暫時進行を務めさせていただきますスポーツ振興課総括課長の鈴木でございます。

よろしくお願いいたします。

本日の出席者でございますが、委員13名中、会場に7名、リモートで2名の御出席を頂いており、「岩手県スポーツ推進審議会条例」第4条第2項の規定により、「委員の半数以上が出席」していることから、本審議会が成立いたしますことを御報告申し上げます。

なお、本日、田中泉樹委員、綱嶋久子委員、中嶋敦委員、中村和平委員は御都合により御欠席の旨御連絡をいただいております。

また、先に御案内申し上げましたとおり、「審議会等の会議の公開に関する指針」により、本日の会議は、全て公開といたしますので、予め御了承くださいますようお願いいたします。

2 部長あいさつ

(鈴木総括課長)

それでは開会にあたりまして、小原文化スポーツ部長から挨拶を申し上げます。

(小原文化スポーツ部長)

岩手県文化スポーツ部長の小原です。

本日は、ご多用のところ、会場への来場もしくはリモートでの御参加をいただき、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、日頃から本県のスポーツ振興に御協力、御尽力いただいております、重ねて敬意と感謝を申し上げます。

さて、メジャーリーグの大谷翔平選手が、日本人選手初の本塁打王に輝くなど偉業を成し遂げました。今週発表される大リーグMVPについても大いに期待されるところです。

それから、体操の南一輝選手は、先日の世界選手権において、跳馬で高得点をマークし、8年ぶりとなる男子団体金メダル獲得に貢献したところでございます。

また、パラ陸上車いすの小野寺萌恵選手は、杭州アジアパラ競技大会で、トップと1秒差での3位となるなど大いに健闘いたしました。

最近のニュースでは、いわてスーパーキッズ出身の選手では、藤原ひなた選手が、女子ハンドボール世界選手権の日本代表に選ばれるという、うれしいニュースもございます。

様々な形で本県ゆかりの多くの選手が国内外で活躍されております。これが県民に日々の活力を与えてくれていることを実感する次第であります。

県といたしましては、県民一人ひとりがスポーツに対する関心をさらに高め、誰もが、日常的にスポーツに親しむことができるよう、そしてその中からトップアスリートが生まれ、県内や県外との交流も活発になり、それぞれの地域の活性化につながるよう、より一層、スポーツの振興に取り組んでいくこととしております。

本日は、その取組の基本の道筋となります「第2期岩手県スポーツ推進計画」の素案等について、事

務局から説明し、皆様に御審議いただく予定としております。

委員の皆様には、幅広い見地から忌憚のない御意見や御助言をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。開会にあたっての御挨拶といたします。

本日はどうぞよろしくお願い致します。

3 会長あいさつ

(鈴木総括課長)

続きまして、谷藤節雄会長から御挨拶をお願いいたします。

(谷藤会長)

みなさん、こんにちは。岩手県体育協会の谷藤と申します。よろしくお願い致します。

前回は、現計画の取組状況と第2期計画の骨子について説明いただき御意見を頂戴いたしました。

今回は、先ほど部長からの挨拶にありましたように計画の素案について具体的な提案がありますが、その後、パブリックコメントを経て次回2月の会議で計画案の完成となります。今回で概ね方向性は固まるものと思いますので、皆様にはそれぞれの専門分野の立場から忌憚のない御意見をいただければと思います。

今日はどうぞよろしくお願い致します。

(鈴木総括課長)

ありがとうございました。

続きまして、議題に入りますが、条例第3条第2項の規定により、会長が議長となることとなっておりますので、これより先の議事につきましては、谷藤会長に進行をお願いいたします。

4 議題

(1) 議事

(谷藤会長)

それでは、会議の次第によりまして進めてまいります。

早速ですが、次第4議題(1)議事に入ります。

①「第2期岩手スポーツ推進計画」の策定について、事務局から説明をお願いします。

なお、委員の皆様におかれましては、忌憚のない御意見や、御要望など、積極的に御発言いただきたいと思っております。よろしくお願い致します。それでは、資料1をご覧ください。

(鈴木総括課長)

それでは、資料1の「第2期岩手県スポーツ推進計画」の策定について、御説明いたします。

まず、「1 計画の策定方針について」は、前回の審議会で御説明した内容を取りまとめたものです。

(1)の計画策定の趣旨は、このスポーツ推進計画がスポーツ基本法に基づく「地方スポーツ推進計画」であること。

(2)の計画期間は、令和6年度から令和10年度までの5年間とすること。

(3)の計画の構成等は、現計画の構成を基本とし、国のスポーツ基本計画、いわて県民計画の第2期アクションプランを踏まえた内容とすること。としております。

次に、「2 計画について」は、現計画は「計画策定の考え方」、「目指す姿・施策の基本的な方向」、「スポーツ推進の施策展開」、「計画の推進・進行管理」の4章構成となっておりますので、その章ごとに策定の概要をまとめております。

(1)「第1章 計画策定の考え方」は、「1 計画の趣旨」に大規模大会や本県出身のアスリートの活躍を契機としたスポーツ振興の必要性と新型コロナウイルス感染症の影響の内容を追加したほか、「4 スポーツの意義」にも新型コロナウイルス感染症の影響の内容を追加しております。

また、第2期計画の策定に伴い、「5 現状と課題」の項目を追加するとともに、国の第3期計画の策定を踏まえ、「6 国の第3期スポーツ基本計画の概要」の項目も追加しております。

2ページになりますが、(2)「第2章 目指す姿・施策の基本的な方向」は、「2 施策の基本的な方向」は、総合型地域スポーツクラブの活性化や運動部活動の地域移行、インクルーシブスポーツの創出等、中長期的な視点に立った育成や指導者の育成、最新技術等に基づく指導者の育成、トップ・プロスポーツチームと連携した地域活性化の内容をそれぞれの施策の柱に追加しております。

また、第2期計画の取組を推進するため、市町村やスポーツ関係団体など多様な主体との連携が必要であることから、「3 多様な主体との連携」の項目を追加しております。

「第3章 スポーツ推進の施策展開」は、新たに推進する主な取組をまとめております。これについては、資料2で改めて説明いたします。

3ページになりますが、

「第4章 計画の推進・進行管理」は、アクションプランの内容に合わせ、国体順位の指標を「全国大会入賞競技団体数」の指標に変更しております。

次に、「3 第2期計画策定スケジュールについて」は、今後、県議会等に「計画素案」を報告・説明し、パブリックコメントを実施し、第3回審議会を来年2月に開催した後、この審議会から答申をいただき、3月下旬に策定することとしております。

以上が資料1の説明となります。

(谷藤会長)

ありがとうございました。

ただ今の「第2期岩手県スポーツ推進計画」の策定についての説明に対して、御意見、質問等ありましたらお願いいたします。内城委員お願いします。

(内城委員)

内城です。

3ページの(4)第4章計画推進・進行管理のところですが、「国民体育大会天皇杯順位」が「全国大会入賞競技団体数」に指標が変わるということは非常に好ましいことだと考えますが、現状値が2022年50団体で、2年後の2024年、来年ですが110団体と倍増している数値を目標値としていますが、その目標値の導き方をどのようにされたのかということをお聞きしたいと思います。

また、併せてこの表の「施策の柱」がそれぞれございますが、計画目標値がかなりハードルの高い数

値もあるように思いますが、この数値の導き方を全体含めてご説明いただければと思います。よろしく
お願いいたします。

(谷藤会長)

事務局お願いします。

(鈴木総括課長)

全国大会の入賞競技団体数ですが、2022年度が2024年度となりますと、50から110ということで
倍になっておりますが、これは累計の数字でございまして、年間だいたい30ぐらい入賞するような見
込みで計画を立てておりまして、それに向けて競技力強化を十分図っていく取組をしていきたいと考
えております。

それから他の指標についても、これまで計画の中で取り組んできた考え方によりまして目標を設定
しまして、若干高いものもあるかもしれませんが、新しく策定した取組の中でこの指標に近づけるよう
に取り組んで参りたいと考えております。

(内城委員)

ありがとうございます。そうしますと、年度単位の目標値ではなくて累計ということですね。

(鈴木総括課長)

今言った入賞数については累計となっております。

累計になっているものは、累計と書いておりますので「共生社会スポーツの推進」から以下のもの
については累計の数字で指標を立ててございます。

(内城委員)

ありがとうございました。

(谷藤会長)

関連して、御意見がありましたらお願いします。では、他の質問、意見等ありましたら、お願いしま
す。よろしいですか。

それでは次に、②「第2期岩手県スポーツ推進計画」の素案について事務局から説明をお願いします
ます。

(鈴木総括課長)

資料2の「第2期岩手県スポーツ推進計画」の素案について、御説明いたします。

この素案は、「第3章 目指す姿・施策の基本的な方向」について取りまとめており、目次の表頭2列
目の施策展開の方向の項目ごとに説明いたしますので、その項目ごとに御意見をいただきたいと考
えております。

まず、施策の柱「1 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進」の「施策展開の方向」の

「(1) スポーツ参画人口の拡大」について、御説明いたします。

1 ページ・2 ページの「現状と課題」は、スポーツ実施率、総合型地域スポーツクラブの育成状況、肥満者の割合などの時点修正を行うとともに、肥満者減少の取組やスポーツ医・科学に基づく取組や健康づくりの拠点づくりの取組や運動プログラム紹介の動画配信の取組の状況などを追加しております。2 ページの「取組の方向性」は、アクションプランの内容に合わせ、「超人スポーツ」の創出・情報発信を削除するとともに、新たに、部活動の地域移行や健康増進の拠点づくりや動画や健康アプリ、SNSなどを活用した健康づくりなどの取組を追加しております。

「主な取組内容」について3 ページの「①スポーツを楽しむ機会の充実」は、先ほど説明した「取組の方向性」に合わせ、「超人スポーツ」などの取組について削除しております。「②総合型地域スポーツクラブの充実」は、地域クラブ活動への移行に向けた取組を追加するなどしております。

3 ページ・4 ページの「③スポーツを通じた健康増進」は、先ほど説明しました「取組の方向性」に合わせ、健康増進のための拠点づくりや「レッツ！ぺっこトレ」や健康アプリ、SNSなどを活用した健康づくりの取組を追加するなどしております。

以上が「(1) スポーツ参画人口の拡大」の説明でございます。

(谷藤会長)

スポーツ参画人口の拡大についてということで、資料で言うと、1 ページから4 ページの上まで説明していただきましたが、この部分について御質問、御意見がありましたらお願いいたします。

内城委員お願いします。

(内城委員)

総合型地域スポーツクラブの現状と課題のことについて、これからだと思いますが、2017 年度には会員数1 万2000 人余という数字が、2022 年5 年間の間で30%から40%近く減少している状況があるかと思いますが、ここに何があったのか。というところがこれからの課題だと思いますが、教えていただければと思います。

(谷藤会長)

事務局お願いします。

(鈴木総括課長)

これはコロナ禍の影響で、様々なスポーツ関係の事業に参加した方を会員と捉えていたクラブがあったのですが、コロナの関係でそれらの事業ができなくなりまして、そのために大きく減少しております。

コロナウイルス感染症の影響も出ましたので、引き続き会員数が増えていく取組が必要だと考えてございます。

(谷藤会長)

よろしいでしょうか。菅委員お願いします。

(管委員)

学校部活動の休日の地域クラブ活動への移行への対応の中で、いろんな課題があるのではないかと思います。

一つは、後半の方にも同じような項目が出てくるところがありましたけども、個々の子どもたちの自主性を持ってということをおっしゃって、クラブ活動をしない子が増えてくるだろう。それに対する対策など十分対応できるのか、特に肥満とか。また、地域クラブ活動へ移行することにより、医・科学的な課題がいっぱい出てきて、けが人が増えそうだと個人的には予想しているところですが、資格者、指導者の資格とありますけど、どこまで物事をしていくのか、この機会にきちんとしないと問題があると感じていますが、その点に関していかがでしょうか。

(谷藤会長)

事務局いいですか。

(鈴木総括課長)

部活動の地域移行につきましては、今年度から3年間で、改革推進期間ということで取り組みを進めて、市町村での取り組みの状況はバラバラではございますが、そういう推進期間ですので、私達の方では後押しなり、課題等を考慮しながら対応していきたいと思っております。

スポーツをやりたい子どもたちがスポーツをきちんとできるような、受け入れ体制を作っていきたいと考えてございます。

先生がおっしゃいました、けがの関係でございますが、地域クラブの指導者等の資格を取るような支援をしておりますので、それらも活用しながらそういうことのないように取り組めていければいいと考えております。

(管委員)

資格に関しては、どういう考えでしょうか。他に書いてありますか。

(佐藤主幹兼生涯スポーツ担当課長)

指導者資格につきましては、現在、地域移行する以前から県の方で県の体育協会を通じまして、資格取得の研修会等を行っているところでございまして、現時点で想定するものにつきましては、例えば日本スポーツ協会公認の指導者資格取得等を念頭に考えているところでございますが、今後必要に応じて検討して参りたいと考えております。

(管委員)

実は、(資格を)もっていないで活動している現状があって、子どもさんを連れてくる親が教えていて、昔の経験でやっている方々が実際多いというのがありますので、この機会に方向性を持ったほうがいいと思います。

私事ですが、国体、インターハイなどに行って、整形外科医のスポーツドクターを指導してほしいと言われます、結構けが人が多いので。

現場を知らないでただ、3年間指導する親が増えるのではないかと危惧していました。この辺をどのように指導していくかが、課題となってくるのではないかと。学校から比べると、少し見えなくなっていることが心配しています。

(鈴木総括課長)

先生おっしゃったように、スポーツ医・科学に基づく指導が非常に大切だと考えてございますので、先生からいただいた御意見も踏まえまして、どういう取組みをしていくか、検討を進めていきたいと考えてございます。

(谷藤会長)

ご意見として承りたいと思います。他にいらっしゃいますか。御意見がないようでしたら、次の(2)に進めてよろしいですか。

それでは(2)「子どものスポーツ機会の充実について」事務局からお願いいたします。

(鈴木総括課長)

それでは、「施策展開の方向」の「(2) 子どものスポーツ機会の充実」について、御説明いたします。

4ページ・5ページの「現状と課題」は、本県出身選手の世界を舞台とした活躍や、「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」、「学校保健統計調査」に係る内容を更新するとともに、部活動の地域移行の取組の状況を追加するなどしております。5ページの「取組の方向性」は、部活動の地域移行の取組を追加するなどしております。

「主な取組内容」の「①学校体育の充実」は、「60運動」を発展・継承した「60プラスプロジェクト」の展開の取組を追加しております。

なお、その下の赤字の「オリンピック・パラリンピアンを各学校へ派遣」の部分は、赤字となっておりますが、黒字の表記が正しいものですので、恐縮ですが、修正させていただきます。

5ページ・6ページの「②運動部活動の充実」は、先ほど説明しました「取組の方向性」に合わせ、部活動の地域移行の取組を追加しております。6ページの「③地域における子どものスポーツ機会の充実」は、これも先ほど説明しました「取組の方向性」に合わせ、地域クラブ活動への移行に向けた取組を追加するなどしております。

以上が「(2) 子どものスポーツ機会の充実」の説明でございます。

(谷藤会長)

ただいま説明いただきました、「(2) 子供のスポーツ機会の充実」について、6ページの下段までの説明でしたが、皆さんの方から御質問、御意見等ありましたらお願いいたします。菊池委員お願いします。

(菊池委員)

地元で、部活の地域移行に対するアンケートをとりました。部活動指導員に係る調査で、中学校が7校ありますが、部活指導員を探す場合には、地域の方にあたりながら直接探す方法で調整してきました

が、指導員を配置して欲しい部活動に、あてがないということも多く、なかなか探すことができない。

今回のアンケートでは、体育団体は31団体あるうちの9団体が受け入れられる。文化部は、21団体あるが5団体ぐらいいし子供たちを地域移行で受け入れられないというアンケート結果でした。

部活の指導員が、直接指導員になるということなので、やはりスポーツに係る部活動については、いろんな競技について、希望があればその中から指導員を配置することができればいいのですが、やはり人材バンクみたいな感じで、継続して探していく必要があるのではないかとということと、もう一つのアンケートは土日祝日の受け入れについてということで、これも同じくやはり先ほど言った体育団体では9団体、文化部では5団体ということで、やはり全部が全部の団体では受け入れることができない。スポーツ少年団も少なくなってきた。地元の方ではスポーツ総合型っていうのはないので、結局、体育団体や、文化協会を頼るしかない状況です。

受け入れがないということは、子どもたちも、来年度からは、任意加入になるのかもしれませんが、運動不足の子が増えるのかなと思っているので、スポーツ推進で何かやろうかということでも、なかなか親たちが連れてくるというわけにもいかず、悩んでいるところです。

いろいろと資料があるのですが、果たしてこのようにうまくいくのか心配ですけど、スポーツ推進委員を頼りにされることもあるので、いろいろと、これから検討していきたいと思っています。ありがとうございます。

(谷藤会長)

はい。ありがとうございます。

現段階での状況、現状と課題ですが、事務局から何かございますか。

(鈴木総括課長)

ご報告ありがとうございます。

今、委員がおっしゃったように、やはり指導者の確保、あとは受け入れ体制の整備が多く地域で課題になっていると認識しております。

県内でもモデル事業等をやっておりますので、それらのモデル事業等の状況も踏まえながら、それぞれ地域によって事情が違う部分もありますので、地域の実態に合わせた地域クラブ活動の移行を進めていきたいと考えてございます。

(谷藤会長)

はい。よろしいですか。他にございますか。

小野委員お願いします。

(小野委員)

運動部活動の地域移行に関わって、我々中体連には大会参加の見直しが求められており、今年度から学校以外のチームが大会に参加することを認めております。ただすべてのチームの受け入れが可能かとなると、やはり、いろんな条件がありますので、すべてを受け入れるというところまで至っていないというのが現状です。

一方で、学校部活動も生徒が減少していますので、やりたい部活動が学校にないというようなところもあって、地域移行と学校部活動が連動しながら進んでいけばいいと思っているところです。

そういう中で、今、菊池委員さんからお話がありましたが、今後、受け入れ体制をどのように整備していくかというのが大きな課題ですし、やはり指導者の確保というところで、学校部活動も苦労しているところもあります。地域の方に入っていただくとしても、指導者がいないということがあったり、中学生が活動する時間は、その方も仕事があるので部活動の時間に指導することができないということがあったりします。このようなことを一体的に考えていく機会が必要ではないかと思っております。

私も中体連の会議等で、他県の中体連関係者と話をしますが、やはり県で協議会を立ち上げて、今後その県の中学生のスポーツのあり方を考えていくというようなことが進んでいますので、本県においてもそういう場があって、本当に中学生がやりたいことができるような環境を整えるため、我々もできることを探しながら進めていきたいと考えています。

(谷藤会長)

ありがとうございます。事務局からありますか。

(鈴木総括課長)

地域移行に関するご意見いただいたことを踏まえまして、基本的な部分も御意見いただきましたので、それを踏まえまして、検討を進めて参りたいと思います。

(谷藤会長)

関連で何かございますか。内城委員お願いします。

(内城委員)

先日、一関の中学校の体育の先生方に、私は、メンタルトレーニングなど心の方が専門なのでそのようなお話をしたいということで、講演してきましたが、集まっていた先生方は、保健体育の授業も行っていますが、同時に部活動の指導にも力を入れていらっしゃる先生方が多かったです。

技術指導と心の指導どちらに重きを置いて指導されていますかと質問をした時に、先生方は、部活動の方を心の成長、育成に重きを置いて行っていますという方たちがすごく多かったです。私は、部活動というと技術指導がメインになっているのかと思っていましたが、心の育成というところに非常に重点を置いていることを理解することができました。

そのような場合、地域移行した時に子どもの中学生の多感な時期の成長にどのように地域の人たちが関わっていけるのだろうか、という課題が大きく残るような気がしました。できることならば、専門の先生方の活用も、良い形で検討していくべきではないかと思えます。

先生方も地域の一員ですので、仕事の中で、部活動となると任意の部分もありますので難しいかもしれませんが、やはり子どもたちの体育指導に熱い思いを持って、生きがいを持ってやっっている先生方も多いのではないかなと思いますので、そのような先生方が活躍できる枠組みというもの、ぜひご検討いただければと思います。

(谷藤会長)

事務局お願いします。

(鈴木総括課長)

心の指導に一関市で取り組んでいることをお聞きしました。

やはり指導者を確保するのが難しい面がありますので、国の方で指導者の確保のパターンをいくつか示してございまして、その中で、部活動の指導者がこう関わっていくようなケースも示されてございますので、それらも活用しながら地域の実情にあった地域クラブ活動の移行ができるように取り組んでいきたいと考えてございます。

(谷藤会長)

事務局、他はいいですか。保健体育課どうぞ。

(保健体育課粒来課長)

確かに部活動は教育的意義を有し、生徒の自主的で多様な学びの場として、様々な活動がされてきております。

ただ、一方、子どもたちがやりたいスポーツができないという、全国的な課題もありまして本県もそのとおりです。

先ほどスポーツ振興課の総括課長の方からお話があったとおり、様々な指導者の確保策、具体的に言うところ教員の兼業という制度もありますので、それらの活用も進めていきたいと思っております。

(谷藤会長)

ありがとうございます。関連して、地域移行の件はよろしいですか。小野委員お願いします。

(小野委員)

ここに書かれている言葉の整理が必要だと思います。学校部活動という言葉で表現されているもの、部活動というものもあります。他に運動部活動という表現もあります。文脈で使い分けられるということもあると思いますが、広くこれを一般の方も目にするということを考えると、ある程度、言葉の整理をしていく必要があると思います。

国のガイドラインでも、学校部活動と地域クラブ活動というような使い分けをしているようなところもあります。

特に学校の部活に関わる部分の表現がいくつかあったので、その辺り統一していただけたらと思います。

(鈴木総括課長)

お話があった件について、精査しまして、言葉の使い方を統一するようにさせていただきたいと思っております。

(谷藤会長)

ありがとうございます。他にありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

それでは次に進みます(3)の成人のスポーツ機会の充実について、事務局説明をお願いします。

(鈴木総括課長)

それでは、「施策展開の方向」の「(3) 成人のスポーツ機会の充実」について、御説明いたします。

6ページ・7ページの「現状と課題」は、週1日以上スポーツをする者の割合や高齢化率の時点修正を行うとともに、「いわて健康経営認定事務所」制度の創設の状況を追加するなどしております。7ページの「取組の方向性」は修正がありませんので、「主な取組み内容」を御説明します。

「①働く世代のスポーツ参画人口の拡大」は、「いわて健康経営宣言」事業等に変え、新たに制度を創設した「いわて健康経営認定事業所」と連携した取組を記載しております。

「②高齢者のスポーツ参画機会の充実」は、スポーツ医・科学の知見を有する人材を明記するなどしております。

以上が「(3) 成人のスポーツ機会の充実」の説明であります。

(谷藤会長)

ありがとうございます。ただいまの説明に対しまして、御質問、御意見ありましたらお願いします。

特になければ進ませていただきます。(4)スポーツに関わる多様な人材の確保・育成について、事務局お願いいたします。

(鈴木総括課長)

それでは、「施策展開の方向」の「(4) スポーツに関わる多様な人材の確保・育成」について、御説明いたします。

8ページの「現状と課題」は、昨年度のマスターズや冬季国体の開催や大谷翔平選手をはじめとした本県出身選手の活躍の状況を追加したほか、ラグビーワールドカップやマスターズでのボランティアの大会運営への協力、「いわてスポーツプラットフォーム」の設置の状況を追加するなどしております。

8ページ・9ページの「取組の方向性」は、ボランティアへの参加を促進するための大会情報などの発信や「いわてスポーツプラットフォーム」の意見等を聴きながらの地域活性化等に向けた取組を記載しております。

「主な取組内容」9ページの「②スポーツボランティアの養成の促進」は、ボランティア活動の推進を記載しております。

「③スポーツ団体の組織・連携体制の強化」は、「いわてスポーツプラットフォーム」の意見等を踏まえたスポーツ振興の取組を記載しております。

「④スポーツ功労者の表彰の実施」は、社会貢献活動に取り組む企業顕彰を記載しております。

以上が「(4)スポーツに関わる多様な人材の確保・育成」の説明であります。

(谷藤会長)

スポーツに関わる多様な人材の確保育成。資料8ページ、9ページのところで、御質問、御意見あり

ましたらお願いいたします。内城委員お願いします。

(内城委員)

現状と課題のいちばん上のところに指導者の人数、クラブのスタッフと書かれていますが、3,000人ということで日本スポーツ少年団の有資格者指導者と書かれておりますが、ここにもう一つ、J S P O の公認スポーツ指導者の各競技団体別にする必要はないと思うのですが、トータル人数、岩手県の資格者を追記すると良いのではないかと思います。

(鈴木総括課長)

確認して、追加をしたいと思います。ありがとうございます。

(谷藤会長)

ありがとうございます。他にありましたらお願いいたします。小山田委員お願いします。

(小山田委員)

いわてスポーツプラットフォームの件で少しお尋ねします。

官民一体によるスポーツ推進体制ということでプラットフォームを設置して、その意見を聞きながらとあって、確か昨年の12月でしたか設置されているということで、すでにその意見が反映されているものなのか、これから、意見を踏まえながらスポーツ振興の推進ということを挙げているのであれば、この計画も毎年毎年更新しリニューアルされていくというような考え方でよろしいでしょうか。

(谷藤課長)

事務局お願いします。

(鈴木総括課長)

今、委員がおっしゃったように12月に設置をしてございます。

今、重点事項としまして、大会合宿の誘致、あとは、トップ・プロスポーツチームとの関わり等について取り組んでいるところでございまして、この計画の中にもその部分入っているところはありますが、今後進めていく部分につきましても様々項目がたっておりますので、それらもこの計画の中に入れて、今後取り組んでいきたいと考えてございます。

計画につきましては、5年間の計画ですので、今後5年後に再度見直しをする予定でございます。

今後5年間につきましては、この計画の中にあるもので、基本的には取り組んでいきたいと考えてございます。

(谷藤会長)

よろしいでしょうか。

(小山田委員)

そういう内容は開示していただけるのでしょうか。この場で。プラットフォームで話された内容だとかそういうものが開示されるのでしょうか。

(鈴木総括課長)

プラットフォームでの内容については、必要であれば議事録等はお示しすることができます。概要をお渡しすることもできます。

(小山田委員)

結構いろんな全体的に関係する部分があると思います。
そういう点でお聞かせいただければと思い、今、お尋ねしました。

(鈴木総括課長)

もし必要であれば、次の審議会、もしくは概要版をご郵送するとかそういう形でご提供を検討させていただきます。

(谷藤会長)

ありがとうございます。プラットフォームに関連しては、よろしいですか。菅委員、お願いします。

(菅委員)

県のスポーツ医・科学委員会の立場からお話しさせていただきます。

岩手にいろんな大会や事業を持ってきて頑張りましょうという場合が増えていますが、そういう事業をする場合に、岩手県は、医療がすごく乏しい地域と厳しい地域があるという状況の中で、大会とか合宿とか事業をする場合に、地域との連携や人材といいますか、そういうものが十分検討されていない状況で動いているのではないかと、医・科学委員会の委員からの意見があるということも理解いただきたい。

結局大会等を引っ張ってきても、そこにけが人が出たときに心配ではないかということ、多分、行政や競技団体、ウィンタースポーツ等から連絡が来ているのではないかと、聞いておりますけども。

そういうところをきちっとそういうバックグラウンドも含めながら、検討していただきたいということをよろしくお願ひしたいです。

(鈴木総括課長)

わかりました。合宿等様々な誘致をする場合に、けがなどの不測の事態が起こるようなことあるかと思ひますので、医療との連携をしながら進めるように努めていきたいと考えております。

(谷藤会長)

別件ですか。この項目の中であれば、菅委員どうぞお願いします。

(管委員)

今の説明と関連しまして、文化スポーツの皆様はご存知だと思いますけども、その人材育成の中に、バックグラウンドを作る人たちの人材育成が必要だと思っているところがありまして、マスターズやいわて八幡平白銀国体がありました。医療的なバックグラウンドを直前になってお願いするということがありました。

岩手県は、八幡平市とか各競技団体に依頼して、そちらが直接地元の医師会の担当に投げてしまう。そういうことはですね、どうしたらそれがうまくいくかという前もって話し合いをしておかなければ、うまくいかないという現状がありました。

医療関係とか人材育成とか連携をしていかななくてはいけない。特にウィンタースポーツの場合、八幡平市は大きな病院がありません。いくつかの医師会がまとまってなくていろいろ連携がうまくいってない。ウィンタースポーツは、県のナンバーワンスポーツですので、数年に1回は大きな大会があります。そこが、いちばん医療のバックグラウンドがなっていないというのが、今回、冬季国体、マスターズで、あまりにもひどい対応だったと感じましたので、前もって協議会などで連携して、私としてはそういうドクターを育てていきたいというのがありました。

一つの例としては、健康スポーツ医という競技団体ではない人がスキーに出てくれました。PTも出てくれました。しかし、今回IATの人は誰も対応していません。ボランティアでは、来てくれましたけど、そういう要望もありませんでしたし、お願いしてボランティアで、出てもらいました。岩手国体で始まった2つの素晴らしい存在をこういう面でも育てていかななくてはいけないのではないかと考えています。

国体とか大きな大会の時には、そういうことも意識していかないと、本当に岩手の、バックグラウンドの医療を育てないと、本当に素晴らしい、けがをしない、壊れない人材が育たないのではないかと考えておりますので、ぜひそういうことに関して、よろしくお願ひします。

実はこの前、県の会議で、野原さんとか、医療局の方々とお話ししました。医療局は、前もってお話しただけしたら、県立病院に話してドクターを出してくれると、ただし、直前になって話をされても無理ですということになりました。

岩手医大の小笠原理事長からは、当然、災害と一緒になんだから、何があるかわからない時に、ぜひ前もって話してくれれば対応してくれると。そのためには、文化スポーツ部で事前に協議、検討していただきたい。医療局の小原局長には、絶対問題ないということ、この前アドバイスいただきましたので、よろしくお願ひしたい。

(谷藤会長)

事務局よろしいですか。

(鈴木総括課長)

大規模大会を実施する際等には、医療も含めて、県全体で協力体制をとりながらやっていく必要があると認識してございます。そういう準備等は、大会の前だけでなく、それ以前ですね、関係性も含めて、連絡調整しながらですね、全体の実施体制を作るようにですね、県としても今後も取り組んで参りたいというふうに考えてございます。

(菅委員)

是非よろしく申し上げます。少ないんです大きな大会が。その大変貴重な機会を、どのようにいろんな方々が経験し繋げていくかという、そこに医療関係者をどんどん発掘して出していきたいという、こちらの立場もあるんですけど、絶対お役に立つんじゃないかと思っていますので、是非よろしく願いいたします。

(鈴木総括課長)

ありがとうございます。

(谷藤会長)

私からちょっと確認ですけど、例えば今のような要望を繋げていくのも岩手プラットフォームの役割でいいですね。そういう認識でよろしいですか。

(鈴木総括課長)

そういうものも議論して、意見を出す場だと考えております。

(谷藤会長)

なので、菅委員がおっしゃったバックグラウンド、医療でも、そういう方々の記載がないというよりは、プラットフォームの中でそういうものを連絡して作っていけばいいのではないかと感じました。

他に意見ありましたらお願いいたします。

それでは次に、スポーツを楽しむ環境の整備です。事務局説明をお願いいたします。

(鈴木総括課長)

10 ページになります。スポーツを楽しむ環境の整備についてでございますが、現状と課題、10 ページから 11 ページに跨っておりますが、公共施設個別計画の策定、その計画に基づく取り組みや、県営スポーツ施設のあり方の検討の状況を記載するとともに、県営スポーツ施設の予約システムの整備や利用拡大の取り組みの状況を追加してございます。11 ページになります。取り組みの方向性。県営スポーツ施設の予約施設の整備導入や、市町村とも連携した利用拡大の取り組みを追加するなどしてございます。

主な取り組み内容になりますが、①県営スポーツ施設のストックの適正化は、ボールパークの整備に伴いまして県営野球場の整備の記載を削除するとともに、県営スポーツ施設のあり方の検討を踏まえた次期個別施設計画の策定を追加してございます。

また、最先端技術の活用等に向けた環境整備を追加してございます。

②地域スポーツ資源の有効活用、利用促進は、アクションプランの内容にあわせて、スポーツアクティビティの普及と活用利用の促進の取り組みを記載するとともに、県営スポーツ施設等の予約システムの利用促進の取り組みを追加してございます。

以上が（5）スポーツを楽しむ環境の整備の説明でございます。

(谷藤会長)

スポーツを楽しむ環境の整備について、質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。菅委員お願いします。

(菅委員)

前回か前々回でしたか、スポーツ医科学センターが凍結されていますけどいかがでしょうかというご質問をしたことがあります。その時は、そうですということでしたが、後半部分を見るといろいろ検討していくというところかできていたと思いますが、適正化ということでしたので、具体的に何か、現時点での話があるのでしょうか。

(谷藤会長)

事務局お願いします。

(鈴木総括課長)

(2)の報告のところ、あり方検討の説明をしますけれども、県営スポーツ施設のあり方検討です。その中で現在、医科学センターについても検討しておりますので、改めてその部分でご説明をさせていただければと思います。

(谷藤会長)

よろしいでしょうか。他にありましたらお願いいたします。

それでは次に進ませていただきます。12 ページ2の共生社会型スポーツの推進についてお願いいたします。

(鈴木総括課長)

ここから施策の柱が変わりまして、今お話があった共生社会型スポーツの推進になります。その中の政策展開の方向は、(1)障がい者スポーツ等の推進でございます。この項目はアクションプランの内容に合わせて、先ほどのライフステージの方から新たにですね、超人スポーツ、eスポーツ等の取り組みをこちらの方に追加することとしてございます。このことからですね、項目名を、従来障がい者スポーツの推進であったんですが、スポーツの後に等を加えまして、障がい者スポーツ等の推進に変更したいというふうに考えてございます。

現状と課題についてでございますが、障がい者のスポーツイベントなどにおけるコロナ感染症や影響、コロナ禍の影響やその回復に向けた取り組みの必要性、インクルーシブスポーツや超人スポーツなどの取り組み、障がい者スポーツの推進のための地域における支援体制の整備の状況を追加するなどしてございます。

13 ページになりますが、取り組みの方向性は、多様なスポーツへの参画機会の拡大に向けた取り組み、公立スポーツ施設における障がい者が利用しやすい環境整備の取り組みを追加するなどしてございます。主な取り組み内容になりますが、①障がい者のスポーツやその他のスポーツの参画機会の充実につきましては、この項目に先ほど話しました超人スポーツとかeスポーツ等の取り組みを追加して

ございますので、障がい者スポーツの後に赤字になっておりますがその他のスポーツを加えまして、障がい者のスポーツやその他のスポーツの参画機会の充実に項目名を変更したいというふうに考えてございます。

内容につきましては、県内の総合型クラブにおける障がい者の受け入れ体制の整備・拡大を削除しまして、その受け入れ体制整備や拡大の内容を含むインクルーシブスポーツの機会創出の取り組みを追加するほか、アクションプランに合わせまして、超人スポーツなど多様なスポーツへの参画の可能性の研究の取り組みを追加するなどしてございます。13 ページから 14 ページに跨いでおります②障がい者がスポーツを楽しむ環境の整備は、スポーツ施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化に向けた障がい者が利用しやすい環境整備を追加するなどしてございます。

以上が（1）障がい者スポーツ等の推進の説明でございます。

（谷藤会長）

ただいまの説明に対しまして、質問、ご意見ありましたらお願いします。内城委員お願いします。

（内城委員）

13 ページの②番の「障がい者がスポーツを楽しむ環境の整備」のところの、公認パラスポーツ指導員の養成研修に関してですが、私も P T に向けたパラスポーツ指導者講習会を担当していることもありまして、ここに、医療関係者という一言を追記しておくといいと思いました。

（谷藤会長）

事務局お願いします。

（鈴木総括課長）

今頂いたご意見を参考にしまして、追加する方向で検討したいと思います。

（谷藤会長）

他にありましたらお願いいたします。菅委員お願いします。

（菅委員）

言葉遣いですが、「障がい者」という言葉と、「パラ」と、「障がい者スポーツ」、「パラスポーツ」。内容の中に全部スポーツだけじゃないような。言葉遣いに関して私も専門ではないのですが、ほとんどがパラになっていて、そのへんに関して委員の皆さんどうでしょうか。障がい者等、パラスポーツ、内容的にスポーツ以外の障がい者もあるということか、言葉遣いがどうするほうがいいのか。

（谷藤会長）

事務局お願いします。

(鈴木総括課長)

今いただいたご意見を踏まえまして、もう一度言葉の整理を私達の方で事務局の方でやっていきたいと思います。

(谷藤会長)

他にありましたらお願いいたします。

それでは(2)高齢者スポーツの推進と(3)スポーツにおける女性の活躍推進について、併せてお願いいたします。

(鈴木総括課長)

高齢者スポーツの推進、これ14ページから16ページでございますが、この項目につきましてはすべてですね、再掲の報告になりますので、ここでの説明は省略をさせていただきます。(3)のですねスポーツにおける女性の活躍推進。16ページからになります。16ページから17ページ跨りまして現状と課題であります。週1日以上スポーツをする者の割合、オリンピックにおける女性選手の割合、公認スポーツ指導員の登録状況の時点修正を行うなどしてございます。17ページになります。取り組みの方向性、ここは文言の整理を行ってございます。主な取り組み内容①のスポーツ参画機会の充実、これも文言の整理を行うなどしてございます。②女性がスポーツを楽しむ環境の整備、これは養成したアスレチックトレーナーの活用や、スポーツ医・科学に基づく女性アスリートの支援を追加するなどしてございます。以上が(3)スポーツにおける女性の活躍推進の説明でございます。

(谷藤会長)

スポーツにおける女性の活躍推進について質問、ご意見ありましたらお願いいたします。内城委員どうぞ。

(内城委員)

16ページの下のところですが、女性の指導者や多様な有資格者がスポーツ活動に関わることでの一文なのですが、前回の計画のところでは養成・確保が求められているところから、さらに踏み込んで積極的な活用という表現になっているところ評価できると思いますが、積極的な活用のところに、第三期スポーツ基本計画の方によりますと、40%の女性の役員登用という、非常に現状と乖離のある数値が出されたかと思えます。

積極的な活用という表現。踏み込んだなと私は思うのですが、さらにこれを実現化するためには、もう一步踏み込まないといけないかなと思うのですが、何か具体策や案も今思い浮かぶものがあるわけではないのですが、ご検討いただければと思います。

(谷藤会長)

はい。ご意見としてで、いいですか。

(鈴木総括課長)

ご意見として承りますし、あと役員登用については、この後の部分にも出てまいりますので、そこでもご説明させていただきたいと思います。

(谷藤会長)

ありがとうございます。他にありましたらお願いいたします。

それでは次に、施策の柱三つ目の、国際的に活躍する競技スポーツの推進の中の(1)アスリートの発掘育成について事務局から説明をお願いいたします。

(鈴木総括課長)

話がありましたとおり、三つ目の柱になります。アスリートの一つ目、アスリートの発掘育成でございまして、現状と課題、17ページから18ページに跨っておりますが、スーパーキッズのタブレット端末を活用した取り組みや、岩手スポーツアスリート無料職業紹介所の開設等の状況を追加するとともに、スーパーキッズや国体に向けた取り組みなどの時点修正を行うなどしてございます。18ページから19ページになりますが、取り組みの方向性は、これもスーパーキッズのタブレットの端末を活用した取り組みを追加するなどしてございます。

19ページ、大まかな取り組み内容の①。次世代アスリート発掘育成は、これもスーパーキッズのタブレット端末を活用したアスリートの育成の取り組みに追加してございますし、中長期的な視点に立ったジュニア期からの競技力向上の取り組みを追加してございます。

②国内外で活躍するアスリートの育成は、アクションプランの内容にあわせまして、高校生の選手強化や競技力向上の取り組みを整備するなどしてございます。

③になりますが、アスリートが競技生活を継続できる環境の整備。これも岩手スポーツアスリート無料職業紹介所によるアスリートの県内就職の取り組みを追加するなどしてございます。

20ページになりますが、④スポーツ優秀選手の表彰。岩手県文化スポーツ表彰の取り組みを追加してございます。

以上が(1)アスリートの発掘育成の説明でございます。

(谷藤会長)

資料20ページの上段までで、皆さんの方から質問ご意見等ありましたらお願いいたします。

18ページの真ん中のスーパーキッズのタブレットのところは、令和3年度は、西暦括弧に直していいですか。

(鈴木総括課長)

直したいと思います。ありがとうございます。

西暦を加えて、令和を括弧で表示します。

(谷藤会長)

特になければ、(2)競技力向上を支える人材の育成について、説明をお願いいたします。

(鈴木総括課長)

競技力向上を支える人材の育成でございます。現状と課題、20 ページ 21 ページに跨っておりますが、デジタル技術を活用した効率的かつ効果的な指導の普及等の取り組みの状況を追加してごさいますし、日本スポーツ協会公認指導者数やアスリートのサポート人材数等の時点修正を行うなどしてごさいます。21 ページになりますが、取り組みの方向性。これもデジタル技術を活用した効率的かつ効果的な指導の普及の取り組みを追加するなどしてごさいます。

主な取り組み内容になりますが、①指導者の資質向上は、全国で活躍する指導者との連携による県内指導者の資質向上や、映像データ分析等デジタル技術を活用した競技力向上の取り組みを追加するなどしてごさいます。

22 ページになりますが、②アスリートのサポート人材の育成は、岩手アスレチックトレーナーを養成したことから、日本スポーツ協会公認のアスレチックトレーナーと合わせて活用していく取り組みを追加してごさいます。以上が

(2) 競技力向上を支える人材の育成の説明でございます。

(谷藤会長)

皆さんの方から質問ご意見ありましたらお願いいたします。内城委員お願いします。

(内城委員)

22 ページのアスリートのサポート人材の育成のところですが、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会等の医療関係団体と連携し、とありますが、ここに、スポーツ栄養士会があったのではないかと思いますので、栄養士会の方の名称も入れて連携の対象にするとよろしいのではないかと思います。

(谷藤会長)

事務局お願いします。

(鈴木総括課長)

参考にさせていただいて、追加する方向で検討したいと思います。

(谷藤会長)

他にありましたらお願いいたします。

なければ(3) 競技力を支える環境の整備について事務局説明をお願いいたします。

(鈴木総括課長)

22 ページになります。競技力を向上させる環境の整備についてでございます。現状と課題、23 ページまで跨っておりますが、国のハイパフォーマンスセンターの設立や、本県の競技団体における女性役員登用数の状況を追加するなどしてごさいます。23 ページになりますが、取り組みの方向性は、アスリートの育成を効果的に支援する拠点づくり、スポーツ指導のデジタル化の普及や競技団体等の運営に女性の視点を反映できる体制整備の取り組みを追加するなどしてごさいます。

主な取り組み内容でございますが、①スポーツ医・科学情報等を活用した支援は、スポーツデータを活用し効果的なトレーニングに結びつける拠点づくり。日本スポーツ協会公認のアスレチックトレーナーと合わせた岩手アスレチックトレーナーの活用。映像データ分析等デジタル技術を活用した競技力向上の取り組みを追加するなどしてございます。②競技団体の組織強化は 24 ページまで跨っておりますが、こちらも女性がスポーツをしやすい組織づくりに向けた取り組みを追加してございます。

以上が（3）競技力向上を支える環境の整備の説明でございます。

（谷藤会長）

ただいまの説明に対しまして、質問、意見ありましたらお願いいたします。

それでは進めてよろしいですか。施策の柱の 4 本目、地域を活性化させるスポーツの推進ということで、（1）の地域の活力に繋がるスポーツの推進について事務局説明お願いいたします。

（鈴木総括課長）

柱変わります、地域の活力に繋がるスポーツの推進でございます。24 ページ、現状と課題ですが、現在の国や本県のですね、地域の活力に繋がるスポーツ振興の取り組みの状況、ラグビーワールドカップや東京 2020 大会終了後の本県のラグビー県いわたの情報発信、それから被災地スポーツ交流事業の取り組みの状況を記載してございます。取り組みの方向性 25 ページまで記載してございますが、岩手スポーツプラットフォームの意見等を聞きながらの人的経済的交流の拡大に向けた取り組み。ラグビーワールドカップや東京 2020 大会終了後の交流人口の拡大の取り組みを追加するなどしてございます。

25 ページ、主な取り組み内容になりますが、①スポーツコミッションやトップ・プロスポーツチームと連携した地域活性化の推進は、アクションプランの内容にあわせまして、スポーツアクティビティの普及など地域活性化の推進に向けた取り組みを追加するなどしてございます。②大規模スポーツ大会を契機とした人的交流の推進は、ラグビーワールドカップ、東京 2020 大会が終了したことからそれら大規模スポーツ大会に置き換えまして、項目名を変更したいというふうに考えてございます。

内容ですが、ラグビーワールドカップ、東京 2020 大会の終了にあわせまして、ラグビー県いわたの情報発信、被災地スポーツ交流事業の取り組みを追加するなどしてございます。

以上が（1）地域の活力に繋がるスポーツの推進の説明でございます。

（谷藤会長）

資料 24、25 ページのところ質問、ご意見ありましたらお願いいたします。

（内城委員）

「大規模スポーツ大会を契機とした人的交流の推進」25 ページのところですが、今年度の事業か、昨年度の事業か失念してしまいましたが、ラグビーのトップ選手、おそらく少年のチームだと思っておりますが、海外の方に派遣された事業があったかと思っておりますが、その成果発表というか成果報告というのがどこからも聞こえてこないもので、もしあったら教えていただきたいと思っております。

(谷藤会長)

事務局わかりますか。

(鈴木総括課長)

少年のチームだったでしょうか。

(内城委員)

県、海外派遣です。

(鈴木総括課長)

すみません。ちょっと承知しておりませんでしたので、内容を確認して次回の審議会に、ご説明できるようにしたいと思います。申し訳ございません。

(内城委員)

よろしくお願いします。

(谷藤会長)

他にお願いします。

それでは(2)経済の活性化に繋がるスポーツの推進について事務局より説明をお願いいたします。

(鈴木総括課長)

(2)経済の活性化に繋がるスポーツの推進でございます。26ページ、現状と課題でございます。ラグビーワールドカップ、東京2020大会が終了したことに伴いまして関係する内容を削除するとともに、大会後の経済の活性化に繋がるスポーツの推進の状況や、岩手スポーツプラットフォームの設置、それからそれに伴う関係団体と連携した取り組みの状況を追加するなどしてございます。27ページになりますが、取り組みの方向性は岩手スポーツプラットフォームを設立したことから、その意見等を聞きながら、人的経済的交流の拡大に向けた取り組みを進めることを追加するなどしてございます。

主な取り組み内容になりますが、①大規模スポーツイベント等と連携した市場開拓等への支援は、現計画ではトップ・プロスポーツチームと連携した取り組みを合わせて記載しておりましたが、大規模スポーツイベント等に係る項目として項目名を変更するとともに、トップ・プロスポーツチームと連携した取り組みにつきましてはこの項目と切り離しまして、次の②トップ・プロスポーツチームと連携した市場開拓等への支援として、新しく項目を起こしたいと考えております。

まず、①大規模スポーツイベント等と連携した市場開拓等への支援でございますが、東京2020大会の終了に伴い、大会への取り組みを削除するなどしてございます。次の②新しく作った項目ですが、トップ・プロスポーツチームと連携した市場開拓等への支援は、①の項目からトップ・プロスポーツチームと連携した取り組みを抜き出しまして、改めて記載してございます。③スポーツビジネスの創出拡大は、これも岩手スポーツプラットフォームを設立しましたことから、その意見を聞きながら県内企業の取り組みを推進することを追加するなどしてございます。

以上が（２）経済の活性化に繋がるスポーツの推進の説明でございます。

（谷藤会長）

ただいまの説明に対しまして、質問、意見ありましたらお願いいたします。内城委員お願いします。

（内城委員）

「スポーツビジネスの創出・拡大」27 ページの下のところですが、県内のトップ・プロスポーツチームをはじめとする各種スポーツ団体と市町村、民間事業者等との連携によるとありますが、もし可能であれば、ここに大学というのも入れてもいいのではないかなと思いました。

（鈴木総括課長）

参考とさせていただいて、入れる方向で検討したいと思います。

（谷藤会長）

ありがとうございます。他に皆さんからお願いします。

それでは次に 1 枚目の資料 3 になりますけども、スポーツ推進計画の概要版について事務局から説明をお願いいたします。

（鈴木総括課長）

資料 3 でございます。これ今までご説明しました岩手県スポーツ推進計画の概要版でございます。概要版としまして、A 3 版のですね、1 枚にまとめたものでございます。左側に項目としまして策定の趣旨、計画の位置付け、計画の期間、目指す姿、四つの施策の取り組み内容を記載してございます。項目の上に章が書いてございますが、これはスポーツ推進計画の章を表してございます。

また、今のものの下に、それぞれの施策の柱ごとに主な取り組みを記載しまして、新たに記載する取り組みには新と表記、拡充する取り組みには拡充の拡と表記をしてございます。取り組みの具体的な内容につきましては、ここまでのところでご説明したものと重複いたしますので、省略をさせていただきたいと思います。

以上が資料 3 の説明でございます。

（谷藤会長）

ありがとうございます。それではここまでの全体を通してということでよろしいと思いますが、質問意見等ございましたらお願いいたします。

内城委員お願いします。

（内城委員）

2 番の「共生社会型スポーツの推進」の（３）「スポーツにおける女性の活躍推進」のところですが、①の「女性のスポーツ参画機会の充実」のところなのか②の「女性がスポーツを楽しむ環境の整備」な

のか、もしくはもう一つ③というのが出てくるのかわかりませんが、やはり女性のアスリート、もしくは、アスリートをリタイアした後の引退した後の活躍の場の設置というようなところで、女性の役員等での活躍ですね。リーダーの育成とか、活動の場の設置とか、そのような言葉、適切な文言があったと思いますが、①番と②番だけでは(3)の目標の姿を達成することができないのではないかなと思います。もう少しはっきり特出したほうが良いと思いますので、ご検討いただきたいと思います。

(谷藤会長)

事務局お願いします。

(鈴木総括課長)

今頂いたご意見は、資料2の素案も見直し必要になってくる部分かと思いますが、そちらの方も併せて、どのような内容にするか、事務局の方で検討しまして次回お示しできるようにしたいと思います。

(谷藤会長)

他にありましたらお願いいたします。

内城委員お願いします。

(内城委員)

「国際的に活躍する競技スポーツの推進」3のところの一番下のところですが、「そのスポーツ団体等の女性役員の登用等」の文言がありましたので、こちらを2の「共生社会型スポーツの推進」の(3)のところに入れた方がわかりやすいのではないかと考えます。

(谷藤会長)

事務局お願いします。

(鈴木総括課長)

入れる場所については、検討しましてこちらの方が適当かなということにはなったのですが、役員の部分だけではなくということでしたので、それも含めて再度検討したいと思います。

(谷藤会長)

他にありましたらお願いいたします。

4の(1)の①のスポーツコミッションは、これは市町村のことですか。

(鈴木総括課長)

岩手県のスポーツコミッションということです。

(谷藤会長)

わかりました。このいわてスポーツコミッションといわてスポーツプラットフォームとやる内容が重なっている部分もあるような、ないような感じですが、これが一緒になるっていうことはない、ずっと分かれていくっていう認識でよろしいでしょうか。

(鈴木総括課長)

今会長が仰った意見は、中でも様々議論しておりまして、一応今の住み分けは、プラットフォームは有識者からご意見をいただくもの。コミッションは今のところですが、大会誘致、県内定着、あとトップ・プロスポーツチームの地域活性化を具体的に推進していくところというすみ分けをさせていただきます。

ただやはり、様々ご意見がありますので、今会長がお話になったことも含めてですね、今後いろいろ検討していかなければならない部分あるのではないかなと考えています。具体的にまだどういう方向でというところまではこうお話できないんですが、様々今言った役割なり、取り組みの仕方も踏まえながら検討していく必要があるところだと考えています。

(谷藤会長)

つなぎ役と実動なのかなと思いつつ考えていましたけども、よろしくお願ひしたいと思ひます。他に皆さんから、リモート参加の今野委員、木下委員から何かありましたが、全体を通してでも結構ですのでお願ひいたします。

それではなければ、次第の4の(2)報告に移らせていただきます。①の県営スポーツ施設の今後のあり方に関する検討について事務局から説明をお願ひいたします。

(小川特命課長)

県営スポーツ施設の今後のあり方に関する検討についてご説明します。

資料4をご覧ください。先ほど計画素案の説明の中でも、県営スポーツ施設の今後のあり方の検討ということ盛り込んでおりましたので、現在の状況についてご報告いたします。

まず、1の検討の趣旨でございますけれども、県営スポーツ施設は、2の(1)の表に記載のとおり、昭和45年に開催しました国体を契機として整備された施設が多く、施設・設備が老朽化している状況でございます。

一方、計画素案にも、県内の公立スポーツ施設が1000施設を超えているとありましたけれども、市町村営のスポーツ施設も充実していますので、市町村との連携や役割分担等の整理が必要でございます。

また、県では個々の公共施設に係る具体の対応方針を定める個別施設計画を策定しておりまして、現行の個別施設計画が令和2年度から6年度までの計画となっております。来年度、令和7年度以降の新たな計画を策定する必要があることから、今年度、県営スポーツ施設の今後のあり方について総合的な検討を行うものです。

なお、震災前には2016年岩手国体に向けた競技力向上を主な目的として、スポーツ医・科学センターと多目的屋内練習施設を整備する計画を進めていましたが、震災の影響により、整備計画が凍結されたところです。現行の個別施設計画を策定する前にも、今行っているようなあり方検討と同じような形で検討を行ったのですが、その際には両施設については、鍵括弧で書いておりますけれども、競技力向

上等の観点から県営の施設として整備することが望ましい、そして、改めて、あり方について検討することが望ましい、とされたことから、既存の県営スポーツ施設と合わせて、スポーツ医・科学センター、そして多目的屋内練習施設についても検討をするものでございます。

2の検討の対象施設ですが、こちらは記載のとおり、既存施設の8施設と(2)にあります整備計画を凍結した施設の計10施設が対象施設になっておりまして、今年4月にオープンしたきたぎんボールパークがございまして、こちらは検討の対象外としております。

次に、2ページをご覧ください。こちらでは、検討の土台となる3県営スポーツ施設に関する基本的な方向でございまして、大きく3つとしております。

まず、(1)県民の健康増進のためにスポーツに取り組むことができる環境を整備すること、それから(2)として、スポーツ医・科学の知見に基づく健康づくりや競技力向上等を図る環境を整備すること、それから(3)として、全国規模等の大会を開催できる施設整備や県内トップ・プロスポーツチームとの連携によりスポーツを通じた人的経済的交流を推進することとしております。こちらは県有スポーツ施設に関するところありますが、県の施設だけでは進めることはなかなか難しいので、市町村との連携や役割分担も含めて考えていくこととしております。

次に、(4)県営スポーツ施設に関する課題でございまして、(1)にありますとおり、冒頭申し上げたとおり、施設・設備が老朽化しておりますので、長寿命化を図る場合は、大規模な改修や設備更新の検討が必要となります。(2)としまして、県と市町村との連携、役割分担の検討が必要ということが挙げられます。それから(3)としまして、県の総合管理計画においては、2040年までに、公共施設の延床面積を令和2年度比85%程度となるよう見直しを進めることとしておりますので、将来人口の展望を踏まえた整理統合が必要であることが課題として挙げられます。これら課題を踏まえて、あり方検討を進めているところでございます。

次に、(5)、これまでの外部有識者との検討状況についてでございますけれども、既存の8施設については、利用状況や類似施設との役割分担、それから整備運営コストの見直しなどを踏まえて、有識者の方々からの意見も参考にしながら総合的に検討しているところでございます。

また、スポーツ医・科学センターと多目的屋内練習施設ですね。申し訳ございません、資料には屋外となっておりますが、屋内の誤りでございますので訂正いたします。この二つの施設については震災で整備計画凍結となっておりますが、もともとこちらの施設は岩手国体に向けた練習環境整備が主な目的でありましたので、国体も終わり、その後の施設の整備状況等の変化も踏まえまして、改めてそのあり方を、現在、既存施設と併せて検討しているところでございます。

あり方については検討している途中でございまして、今現在ではなかなか具体的な内容をお示しすることはできませんけれども、参考までに3ページ、4ページをご覧ください。こちらには令和6年度までの現行の個別施設計画の抜粋を掲載しております。こちらはこの個別施設計画を作る前にあり方検討を行いましたけれども、その結果を踏まえまして策定したものでございます。基本的に既存施設の8施設については記載のとおり、修繕改修を行いながら維持していくこととしております。現在行っているあり方検討では、令和7年度以降の個別施設計画に向けて、改めて施設ごとに今後のあり方を検討しているところでございます。

ちなみに、今回のあり方検討ではボールパークを対象外にしておりますので、こちらの方にも県営野球場は掲載しておりませんが、現行の個別施設計画の策定当時、盛岡市と県と共同で、県営野球場と市

営野球場の代替となる新たな野球場、現在のきたぎんボールパークを整備する計画が進められておりましたので、現行の個別施設計画にはその旨が記載されております。今回は検討対象の施設というところで、そちらの方はこの資料への掲載は省略させていただきました。

2ページにお戻りいただきまして、6の今後の対応でございますけれども、引き続き有識者、それから関係団体等からの意見を踏まえ、検討を進めまして今後のあり方を取りまとめる予定です。来年度、令和7年度以降の個別施設計画を策定しまして、計画的な施設の長寿命化に取り組んでいく予定としております。

あり方検討において、整理統合などが必要とされた施設につきましては、来年度パブリックコメントなどを実施しまして、関係団体それから県民の声も広く聞きながら、さらに具体的な検討を進めていきたいと考えております。

以上で、県営スポーツ施設の今後のあり方に関する検討についての報告を終わります。

(谷藤会長)

ありがとうございました。ただいまの説明に対しまして、ご意見等ありましたらお願いいたします。菅委員お願いします。

(菅委員)

先ほど質問したことに対して、こうやって（ご説明）いただいたと思っておりますけど、結局ご質問しても全く答えられない。

(小川特命課長)

医・科学センターについては、基本的には先ほどの素案の中にも、アスリート育成においてデータ活用ですとか、いろいろな技術、医・科学データ、知見に基づくアスリートの育成というのがありますのでスポーツ医・科学の拠点づくりは必要だと考えております。現在その施設のあり方ということで、こういった例えば単独なのかいろいろな施設と併せて整備するのかというところを検討しているところでございます。

(菅委員)

ありがとうございます。是非、前回の時には国体を目指すということで、競技の方にほとんど重みを置いたところもありますけども、やはり、これからのスポーツは、競技スポーツのほかに健康スポーツとか高齢者とかパラの方々とか、いろんな幅広い状況があって、物事がありますので、是非そういう物事として、幅広い岩手県、関係団体、大学もありますし、医療関係もありますし、そういう方も含めながら競技、スポーツ、使い方も含めながら対応していただければと思っております。よろしく申し上げます。

(谷藤会長)

ご意見として頂戴いたします。他にございましたら。小野委員お願いします。

(小野委員)

既に検討されている内容かもしれませんが、今年の夏の異常な暑さで大会そのものが実施できるかどうかという難しい判断に迫られました。今年度、県営体育館で東北中学校体育大会の体操、新体操競技を開催させていただきましたが、大会会場としては非常にすばらしい体育館ですので、冷房設備があると、もっといい大会になるだろうと感じたところです。県営体育館の冷房設備についてご検討いただければと思います。

(谷藤会長)

事務局お願いします。

(小川特命課長)

本当に今年の夏は特に猛暑でございましたので、かつ、ご覧いただいたとおり、なかなか古い建物なので、冷房設備が完備されているという状況ではございませんので、現状としましては、冷風機を置いて涼しい風を流すということで熱中症対策をしているのですけれども、今後の温暖化も踏まえて、そういった施設整備は必要だとは考えておりますので、今後も検討していきたいと思っております。

(谷藤会長)

ありがとうございます。他にございましたらお願いいたします。

それでは二つ目の特別国体の岩手県選手団の派遣及び結果について、それから三つ目の特別全国障がい者スポーツ大会の派遣状況、結果について事務局お願いいたします。

(熊谷競技スポーツ担当課長)

特別国民体育大会岩手県選手団派遣状況及び結果についてとなります。資料ナンバー5をご覧くださいと思います。特別国民体育大会ですが、1月のスケート2月の本県での白銀国体に続き、10月に鹿児島県で開催されました本会期をもって終了いたしましたところです。スケート、スキーにつきましては、前回の審議会で報告しておりましたので割愛させていただきますのでご了承願います。

派遣についてですが、今回選手監督役員合わせ520名を派遣ということで進めました。

総合成績になりますが、資料2にありますとおり、競技得点808.5点で、昨年度マイナス39点ということで、それを獲得し、男女総合成績の天皇杯順位は33位と3位マイナスというところ。東北では2番目の成績となりまして、目標でありました東北1位には残念ながら届かなかったという結果で終わりました。右側3にありますとおり、ローイング成年男子菅原陸翔さん、ボクシング成年男子鳥谷部魁さんは共に国体2連覇を達成。ボウリング成年男子菅原奏さん、自転車女子チームスプリント小原さん、熊谷さんの4種目での優勝を筆頭に、入賞は冬季も合わせ65種目となり、優勝、入賞数につきましては昨年度を若干上回る結果となりましたが、獲得得点では下回っているということで、こちらは、昨年度に比べ個人競技の優勝が増えたということ。逆にホッケー、弓道、ハンドボール、相撲など団体競技で健闘していただいた競技はあったのですが、団体競技の入賞が14から10に減少したこと。そして、わずかな差で競り負けたということで、入賞を逃した特に団体競技が多かった。これ全部勝てま

すと、宮城県を抜いて東北 1 位にもなれたというようなどころがあることから、ちょっと少し残念な結果となりましたが、こういったことを含め、国体強化は、本県の競技力向上の中軸としてこれからも強化していかねば、努力していかねばならないと考えておるところとなります。

付け加えまして、国体は、来年 1 月の 78 回大会より国民スポーツ大会、国スポと改称して実施されることが決まっております。ご承知いただければというふうに思います。

なお、本県で開催しました第 50 回東北総合体育大会ですが、12 月のアイスホッケー競技の開催を残しまして、何事もなく、無事にご協力いただきまして進めているところということで併せてご報告させていただきます。

そして資料 6 をご覧いただきたいと思います。併せて、特別全国障害者スポーツ大会の状況、結果について報告いたします。10 月下旬に鹿児島県で開催されました大会には、団体競技がブロック大会を 3 競技通過したことで、例年より多い選手役員合わせて 106 名が参加しました。2 にありますとおり、1 位から 3 位相当のメダル獲得数は 26 となり、そのうち金メダルは 10 ということで健闘していただいたのではないのかなということです。特にも、陸上競技 200 メートル、盛岡聴覚支援学校の今野さん。とても素晴らしい記録を出して一位となりまして、こちらは 2025 年の東京で開催されますデフリンピックの出場が期待できるのではないかと関係者からお褒めの言葉をいただいているところで今後の活躍楽しみにしたいというふうに考えております。

また、2 位の欄にあります、4×100 メートルリレー、こちらは県記録を更新しての 2 位と惜しくも 2 位ということで、そういったことを含め、多くの選手が本当に日頃から積み重ねた練習の成果を発揮して、ほとんど記録を伸ばして終了することができた収穫の多い大会であったということで報告されております。以上、派遣状況、結果としてご報告いたします。よろしく申し上げます。

(谷藤会長)

ありがとうございます。ただいまの説明に対しまして、ご意見等ありましたらお願いいたします。
内城委員どうぞ。

(内城委員)

ご報告ありがとうございます。本県代表の選手名、顕著な成績を残した皆さんも名簿のとおりだと思っておりますけれども、少年の男女、もしくはですね、成年になってから県外で活躍して顕著な成績を残している方々の情報も少し入ってきておりました。例えば、今回のバレーボールの少年女子の選手とか、あと陸上の少年女子のですね、スーパーキッズで活躍されていた方々の名前も、ここに掲載されてもよろしいのかなと思います。

本県としては、ちょっと県外に流出している。逆に言えば、すごく人材の宝庫ということが、他県に流れていっている結果からも分かると思うのですけれども、競技力向上という支援もちろん大事ですけども、スポーツ選手が生涯にわたって競技を続けられる。特にトップレベルで競技を続けられる雇用の場、仕事の場もしくはスポンサーっていうようなところの対策というのも、国スポ対策だけではないと思うのですけれども、これからもスポーツ環境を整備する上では、そういったところに目を向ける、我々スポーツ関係者だけが目を向けるのではなくて、県民全員がそのような支援の目を向けていただけるような表現の仕方ができるといいと思っています。以上です。

(谷藤会長)

事務局どうでしょうか。

(熊谷競技スポーツ担当課長)

こちらにつきましても、本県出身の選手が、悔しいぐらい他県で活躍している状況もありまして、担当の方は連絡を取りながら、コミュニケーションを取ったり情報仕入れたりしているところとなり、その活躍もやはりトップアスリート排出等に向けて貴重な情報として活用していくところですので、そういったことを検討いたしまして、今後活用していきたいと考えます。ありがとうございます。

(谷藤会長)

よろしいでしょうか。他にありましたらお願いいたします。

それでは以上をもちまして、報告を終了させていただいてよろしいですか。それでは進行にご協力いただきましてありがとうございます。それでは事務局の方に進行をお返しいたします。

(鈴木総括課長)

谷藤会長ありがとうございました。それでは次に次第の4その他でございますが、委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは事務局の方からお知らせいたします。

次回の審議会でございますが、年が明けた2月6日の開催を予定してございます。開催につきましては改めてご案内を差し上げますので、よろしくをお願いいたします。

委員の皆様今日は長時間に渡りご審議ありがとうございました。

それでは、本日の審議会はこれもちまして閉会といたします。本日はありがとうございました。